

Active Learning Workbook for

English Conversation with Verb Cue Words

動詞キューワードで学ぶ

アクティブラーニング英会話ワークブック

基礎編

指導書

- I. 学習指導書(ユニット共通) p. 2-6
- II. 学習指導書(ユニット別) p. 7-18
 - 1. Unit 1: p. 7
 - 2. Unit 2: p. 9
 - 3. Unit 3: p. 11
 - 4. Unit 4: p. 13
 - 5. Unit 5: p. 15
 - 6. Unit 6: p. 17
 - 7. Unit 7: p. 19
 - 8. Unit 8: p. 21

1. 学習指導書(ユニット共通)

How to Learn 学習の進め方

各 Unit を以下の手順で学習を進めることをおすすめします。

- Step 1 **サンプル英文を読む** * 英文の内容、文法、構成に注目します。
- ↓
- Step 2 **サンプル英文の音読練習とリテリング練習** * サンプル英文の音読練習後、
* イラストを見ながらリテリング練習で口ならしをします。
- ↓
- Step 3 **イラストを描いてプレインストーミング** * テーマに沿って各自イラストを描きま
す。イラストはなるべく詳細に描きます。
- ↓
- Step 4 **英文シナリオを作成** * 描いたイラストを説明する英文シナリオを作成します。
* 中学生レベルの英語で多少の間違いは気にしない。
- ↓
- Step 5 **キューカードを作成** * 英文シナリオから動詞キーワードとシグナルワードを
抜き取り、切り取った巻末キューカードに記入します。
- ↓
- Step 6 **英文シナリオの音読練習** * 英文シナリオを数回音読します。
* 暗記をする必要はありません。
- ↓
- Step 7 **スピーチ** * キューカードを見ながらスピーチ
* 聞き手は、ピアアセスメントシートに聞き取った情報を書き込みます。

Step 1. サンプル英文を読解し、自分のスピーチの参考にします。

(Unit 1 の例)

《イントロダクション》

Hi! I'm Mari. I live in Mitaka of Tokyo. I like sports. On Tuesday, I play volleyball, on Friday I play basketball, and on Saturday, I play tennis. Among them, I like tennis most.

《サポーティング》

Every Saturday I go to Green Park and play tennis with my friend Yuki. She plays tennis very well. She likes fashion, too. So, we put on our favorite uniforms and headbands. We both enjoy tennis and fashion a lot.

《コンクルージョン》

But sometimes we practice hard under our tennis coach because we have the same dream: No.1 player in Japan.

注意点 ・この時にサンプル英文がイントロダクション (Introduction)、サポーティング (Supporting)、コンクルージョン (Conclusion) の構成であることを確認します。

- ・各ユニット (Unit) ごとに学習する文法項目が設定されていますので、それらを意識しながら英文を読み進め英文読解をします。

Step 2. スピーキングの口ならし練習をします。

注意点 ・はじめにサンプル英文を音読練習します。

- ・次にスピーキングの口ならしに、ペアを組んでリテリング (Retelling) 練習をし合ひましょう。
- ・リテリング練習では、テキストのサンプル英文を手で覆って見ずにイラストだけを見て、英文を思い出しながら英語でイラストを説明し合ひます。

Step 3. スピーチ用のイラストを各自イラスト用の空欄 (各ユニットの2ページ目の上段) に描きます。英検のイラスト問題対策にもなります。

注意点 ・イラストを描くことで、英文を書く際のブレイン・ストーミング (Brain Storming) の練習になります。

- ・ブレイン・ストーミングとは、脳 (Brain) を嵐のように活性化 (Storming) させることを言います。これを行うことによって、話す内容についてのアイデアが浮かび、整理する手助けになります。
- ・イラストが詳しければそれだけアイデアが沢山浮かび、話す内容も豊富になります。つまりそれだけ多くの英語を話すことになります。生徒にはイラストを詳しく描くよう指導します。

イラスト画

Step 4. 描いた絵を英語で説明します。

注意点・英文の校正は Introduction、Supporting、Conclusion の校正になっています。

英文原稿の構成

Introduction インTRODクシヨン

- ① 挨拶／書き出し
- ② メイン・アイデア

Supporting サポーテイング

- ③ メイン・アイデアのサポート（説明）

Conclusion コンクルージヨン

- ④ 結論（まとめ）

- ・英文は中学生レベルの英語で十分であると指導することをお勧めします。
- ・また、Unit 毎に設定されている文法を使うように指導します。
- ・サンプル英文の英語を真似て自分の原稿英文を作成するように指導しても良いでしょう。（真似ることとコピーすることとは異なると考えます。）
- ・多少の英語の間違いがあっても、添削は最小限にとどめます。学習者のモチベーションを優先し、自律的な習得を狙います。

STEP 5. キューカードを作ります。

注意点 ・作成した英文から動詞とシグナルワードを抜き出し、巻末付録「Unit 1」から「Unit 8」までのそれぞれ該当するキューカードに記入します。文の終わりには // を記します。//があると英文を容易に思い出すことができるので、忘れずに記入するように指導します。

- ・キューカードの下線に動詞、動詞句を記入します。一つの文が終了する目印として//を記します。

例 (一般動詞) : play // like //

(Be 動詞) : 'm Mari// is my sister// *補語も一緒に記載する。

*Be 動詞は文法機能としての役割が中心であるため、補語も一緒に記載することで、キューワードとして有効的に機能します。

- ・シグナルワードもキューワードとして記入します。シグナルワードとは、話の流れを導くための道標となる語や言い回しのことを言います。シグナルワードをキューワードとして使うことで、スピーチの流れを示してくれるため、話しやすくなります。

例 : Firstly

- ・以下はシグナルワードの例です。

順接 : and, so, then, therefore, accordingly, as a matter of course

列挙 : one...the other, first...next..., first...second...third,

理由 : because, because of, due to, since, for, as, this is mainly because

動機/目的 : in order to, for this purpose, to solve this problem,

類似を表す : similarly, likewise, also, in a similar manner

逆説/対照 : but, however, although, while, whereas, in spite of this,

yet, nevertheless, on the other hand, on the contrary,

焦点を絞る : especially, in fact, particularly, as a matter of fact, a curial point

追加 : also, moreover, furthermore, in addition, at the same time,

仮定/条件 : if, in case, as far as, as long as

例を表す : for example, for instance

- ・キューカードは、キリトリセンで切り取り、カードにしてスピーキングの際に使います。

Step 6. 音読練習をします。

注意点 ・作成した英文を数回音読します。英文をまる暗記する必要はありません。

- ・不安に思う学習者もいるかもしれませんが、完璧に上手く話す必要はないことを伝えてください。英文を自分で作成したということは、英文力があるということです。自分の力を信じてチャレンジすることを学習者にすすめてください。

- ・「立て板に水」のように上手く話すよりも、ゆっくり考えながら、思い出しながら話す方が、英語を話す力がつきます。またその方が聞き手は興味を持って話を聞いてくれるものです。

- ・ゆっくりで良いので、Cue Cards を見て英文を思い出しながら、間違いを恐れず

に話すようにすすめてください。日本人も日本語を話す時に、いつも正しい日本語を話していないことを例に、不安を取り除いてあげても良いでしょう。

Step 5. キューカードを見ながらスピーチをします。

注意点 ・ 教室の皆の前で発表するか、グループを作ってその中で発表し合うのも良いでしょう。

・ この時、学習者はもちろん指導者も日本語は控えます。

・ 発表者の緊張を和らげるために、指導者が英語で相槌を打ったり、小さな質問を差しはさんでも良いでしょう。それによって自然なスピーチや会話にもなります。実は英語母語話者の彼らも、スピーチの場で、聞き手が相槌をうったりコメントを発することがよくあります。スピーチを静かに一方向で聞く時もありますが、双方向で行ってスピーチが盛り上がるのも楽しく、英会話の上達につながるでしょう。

Step 6. 聞き手は PEER ASSESSMENT SHEET に発表内容を聞き取り、内容を書き込みます。この時、ライティングの練習になりますので、英語で書きとめると良いでしょう。学習者の英語のレベルに応じて、英単語で記入、英文で記入を使い分けても良いでしょう。

(記入例)

Unit 1	PEER-ASSESSMENT SHEET	No.:	Name:
<u>Presenter</u>	<u>Personality</u>	<u>Hobbies</u>	<u>Dream</u>
<u>1.</u>			
<u>2.</u>			

注意点 ・ スピーチを評価する際は、スピーチの評価だけでなく、この PEER-ASSESSMENT SHEET を提出させてリスニング力や授業参加度を評価することもできます。

指導書(ユニット別)

Unit 1 “I’m Mari. I like sports.” 「今熱中していること」(一般動詞)

Step 1. サンプル英文(ワークブック P.8)を読んで自分のスピーチの参考にします。

・ サンプルスピーチの構成

Introduction : Salutation(挨拶)→Main Idea 「今熱中していること」

Supporting : 「熱中していることを説明」

Conclusion : 「将来への願い」

・ 使いたい語句

On Tuesday 火曜日に / On Friday 金曜日に / On Saturday 土曜日に /
among them それらの中で / every Saturday 毎週土曜日 / go to ~, ~へ行く
/ too, ~も / put on 身に付ける / a lot 沢山 / under …coach, …のコーチの下
で / same 同じ

・ 使いたい文法

一般動詞 : live in, like, play, go to, put on, enjoy, practice, have

Step 2. サンプル英文を音読練習します。

Step 3. リテリング(Retelling)練習で英会話の口ならしをします。

- ・ ペアを組んで、サンプル英文を手で覆い、イラストを見ながら内容を英語で説明し合います。

Step 4. 自分の「今熱中していること」をイラストに描きます。(ワークブック P.9)

- ・ イラストを描くことで、ブレインストーミング Brain Storming が期待できます。
- ・ ブレインストーミングをすることで、アイデアが浮かび、そのアイデアを整理することができます。

☀ 自己紹介も兼ねていることを念頭に、自己アピールします。

Step 5. 各自のスピーチの英文シナリオを作成します。(ワークブック P.9)

- ・ 自分で描いたイラストを説明する英文シナリオを作成します。
- ・ サンプル英文を参考にしても良いでしょう。
- ・ この時に書く英文は中学生レベルの英語で十分です。英語の間違いを恐れずに書くことをすすめ、指導者の修正は最低限必要な箇所のみにした方が良いでしょう。
- ・ 指導者による修正を最低限に抑える理由は、サンプル英文を読んだり、手本にすることで、学習者が自律的に習得することが期待できるからです。

Step 6. キューカードを作ります。(巻末キューカード Unit 1)

- ・各自が書いた英文シナリオから、動詞（Be 動詞は補語と一緒に）とシグナルワードを抜き出します。
- ・巻末のキューカードをキリトリ線で切り取り、下線上に動詞キューワードまたはシグナルワードを記入し、文末にはピリオドの代わりに//を記します。

Step 7. 音読を数回します。学習者に英文を暗記させる必要はありません。

- ・暗記することによって、間違いを恐れ、英語で話すことを躊躇してしまい苦手意識を持ってしまうかもしれません。暗記をしないように指導します。

Step 8. キューカードを見ながらスピーチをします。

- ・教室の皆の前で話すことが難しいようなら、グループを作って、その中でスピーチし合うのも良いでしょう。
- ・スピーチをする人はもちろん指導者も日本語の使用を控えます。
- ・発表者の緊張を和らげるために、指導者が英語で相槌を打ったり、小さな質問を差しはさんでも良いでしょう。それによって自然なスピーチや会話にもなります。実は英語母語話者の彼らも、スピーチの場で、聞き手が相槌をうったりコメントを発することがよくあります。スピーチを静かに一方向で聞く時もありますが、双方向で行ってスピーチが盛り上がるのも楽しく、英会話の上達につながるでしょう。
- ・キューカードの上に評価（SCORE）を記入することができます。

**Step 9. 聞き手は PEER ASSESSMENT SHEET に発表内容を聞き取ります。
(ワークブック P. 10-11)**

- ・この時、英語で書きとることをお勧めします。仲間のスピーチを聞き取り書き留めることで、リスニングだけでなくライティング練習にもなるでしょう。

Unit 2 “This is exciting. I am happy.”

「家族や友人たちと共通する趣味にも微妙な違いがある」(Be 動詞)

Step 1. サンプル英文(ワークブック P.12) を読んで自分のスピーチの参考にします。

- ・ サンプルスピーチの構成
Introduction : Salutation(挨拶)→Main Idea 「共通する好み」
Supporting : 「共通する好みとは」
Conclusion : 「共通することについて思うこと」
- ・ 使いたい語句
exciting 面白い / common 共通の / taste 好み / kind 親切的な / doesn't like either of them それらのどちらも好きじゃない / take after 受け継ぐ /
- ・ 使いたい文法
Be 動詞 : is exciting / is our common hobby / is mystery / is horror / is a kind / am happy

Step 2. サンプル英文を音読練習します。

Step 3. リテリング(Retelling)練習で英会話の口ならしをします。

- ・ ペアを組んで、サンプル英文を手で覆い、イラストを見ながら内容を英語で説明し合います。

Step 4. 「家族や友人の共通の趣味にも微妙な違い」があるものです。それらをイラストに描きます。(ワークブック P.13)

- ・ イラストを描くことで、ブレインストーミング Brain Storming が期待できます。
- ・ ブレインストーミングをすることで、アイデアが浮かび、そのアイデアを整理することができます。

☀ 家族や友人たちとの間で、共通する趣味でも微妙な違いがあるものです。その違いについて話をします。

Step 5. 各自のスピーチの英文シナリオを作成します。(ワークブック P.13)

- ・ 自分で描いたイラストを説明する英文シナリオを作成します。
- ・ サンプル英文を参考にしても良いでしょう。
- ・ この時に書く英文は中学生レベルの英語で十分です。英語の間違いを恐れずに書くことをすすめ、指導者の修正は最低限必要な箇所のみにした方が良いでしょう。
- ・ 指導者による修正を最低限に抑える理由は、サンプル英文を読んだり、手本にすることで、学習者が自律的に習得することが期待できるからです。

Step 6. キューカードを作ります。(巻末キューカード Unit 2)

- ・各自が書いた英文シナリオから、動詞（Be 動詞は補語と一緒に）とシグナルワードを抜き出します。
- ☀ Be 動詞は補語と一緒にキューワードになることを説明します。この理由が「Be 動詞は文法機能が中心で意味的情報が少ないため、補語と一緒にキューワードを構成した方が効果が得られる」と説明します。
- ・巻末のキューカードをキリトリ線で切り取り、下線上に動詞キューワードまたはシグナルワードを記入し、文末にはピリオドの代わりに//を記します。

Step 7. 音読を数回します。学習者に英文を暗記させる必要はありません。

- ・暗記することによって、間違いを恐れ、英語で話すことを躊躇してしまい苦手意識を持ってしまうかもしれません。暗記をしないように指導します。

Step 8. キューカードを見ながらスピーチをします。

- ・教室の皆の前で話すことが難しいようなら、グループを作って、その中でスピーチし合うのも良いでしょう。
- ・スピーチする人はもちろん指導者も日本語の使用は控えます。
- ・発表者の緊張を和らげるために、指導者が英語で相槌を打ったり、小さな質問を差しはさんでも良いでしょう。それによって自然なスピーチや会話にもなります。実は英語母語話者の彼らも、スピーチの場で、聞き手が相槌をうったりコメントを発することがよくあります。スピーチを静かに一方向で聞く時もありますが、双方向で行ってスピーチが盛り上がるのも楽しく、英会話の上達につながるでしょう。
- ・キューカードの上に評価（SCORE）を記入することができます。

**Step 9. 聞き手は PEER ASSESSMENT SHEET に発表内容を聞き取ります。
(ワークブック P. 14-15)**

- ・この時、英語で書きとることをお勧めします。仲間のスピーチを聞き取り書き留めることで、リスニングだけでなくライティング練習にもなるでしょう。

Unit 3 “My friends and I are having a good time now.”

「今、私たちとても楽しんでいます。」(現在進行形)

Step 1. サンプル英文(ワークブック P.16) を読んで自分のスピーチの参考にします。

- ・ サンプルスピーチの構成
Introduction : Salutation(挨拶)→Main Idea 「今、とても楽しんでいます」
Supporting : 「今、何を誰と楽しんでいるか」
Conclusion : 「これからも楽しみたい」
- ・ 使いたい語句
Be 動詞+in ~, ~にいる / favorite 大好きな / farewell concert 解散コンサート / along with the music 音楽に合わせて / hold in my hand 手に持つ / encourage 元気づける / in my mind 心の中に / miss~がなくてさびしい /
で / same 同じ
- ・ 使いたい文法
現在進行形 : Everybody is singing and clapping.
Some people are holding lights./

Step 2. サンプル英文を音読練習します。

Step 3. リテリング(Retelling)練習で英会話の口ならしをします。

- ・ ペアを組んで、サンプル英文を手で覆い、イラストを見ながら内容を英語で説明し合います。

Step 4. 「今、楽しんでいること」をイラストに描きます。(ワークブック P.17)

- ・ イラストを描くことで、ブレインストーミング Brain Storming が期待できます。
- ・ ブレインストーミングをすることで、アイデアが浮かび、そのアイデアを整理することができます。

☀ これまで一番楽しかったことを思い出し、それを今のことと想定しても良いでしょう。

Step 5. 各自のスピーチの英文シナリオを作成します。(ワークブック P.17)

- ・ 自分で描いたイラストを説明する英文シナリオを作成します。
- ・ サンプル英文を参考にしても良いでしょう。
- ・ この時に書く英文は中学生レベルの英語で十分です。英語の間違いを恐れずに書くことをすすめ、指導者の修正は最低限必要な箇所のみにした方が良いでしょう。
- ・ 指導者による修正を最低限に抑える理由は、サンプル英文を読んだり、手本にすることで、学習者が自律的に習得することが期待できるからです。

Step 6. キューカードを作ります。(巻末キューカード Unit 3)

- ・各自が書いた英文シナリオから、動詞（Be 動詞は補語と一緒に）とシグナルワードを抜き出します。
- ・巻末のキューカードをキリトリ線で切り取り、下線上に動詞キューワードまたはシグナルワードを記入し、文末にはピリオドの代わりに//を記します。

Step 7. 音読を数回します。学習者に英文を暗記させる必要はありません。

- ・暗記することによって、間違いを恐れ、英語で話すことを躊躇してしまい苦手意識を持ってしまうかもしれません。暗記をしないように指導します。

Step 8. キューカードを見ながらスピーチをします。

- ・教室の皆の前で話すことが難しいようなら、グループを作って、その中でスピーチし合うのも良いでしょう。
- ・スピーチをする人はもちろん指導者も日本語の使用はひかえます。
- ・発表者の緊張を和らげるために、指導者が英語で相槌を打ったり、小さな質問を差しはさんでも良いでしょう。それによって自然なスピーチや会話にもなります。実は英語母語話者の彼らも、スピーチの場で、聞き手が相槌をうったりコメントを発することがよくあります。スピーチを静かに一方向で聞く時もありますが、双方向で行ってスピーチが盛り上がるのも楽しく、英会話の上達につながるでしょう。
- ・キューカードの上に評価（SCORE）を記入することができます。

Step 9. 聞き手は PEER ASSESSMENT SHEET に発表内容を聞き取ります。
(ワークブック P. 18-19)

- ・この時、英語で書きとることをお勧めします。仲間のスピーチを聞き取り書き留めることで、リスニングだけでなくライティング練習にもなるでしょう。

Unit 4 “In the picture, Mt. Fuji is covered with snow.”

「スマホの中の写真」(受動態)

Step 1. サンプル英文 (P. 20) を読んで自分のスピーチの参考にします。

・ サンプルスピーチの構成

Introduction : Salutation(挨拶)→Main Idea 「スマホの中にあるお気に入りの写真」

Supporting : 「そのお気に入りの写真を説明する」

Conclusion : 「なぜ沢山ある中でその写真がお気に入りなのか」

・ 使いたい語句

On my smartphone スマートフォンに (の中に) / there are (is) ~がある /
in this picture 写真の中には / in 2013 2013 年に / not only ~but also...
~だけでなく...もまた / a bullet train 新幹線 / as ~, ~として / cultural icon
文化的な象徴 / make me happy 幸せにしてくれる / give me energy 元気をく
れる / am proud of 誇りに思う

・ 使いたい文法

受動態 : It was given to me by my friend.

Mt. Fuji is covered with snow.

It was added to the World Heritage List in 2013 and is loved ...

They are used as cultural icons of Japan.

Step 2. サンプル英文を音読練習します。

Step 3. リテリング(Retelling)練習で英会話の口ならしをします。

- ・ ペアを組んで、サンプル英文を手で覆い、イラストを見ながら内容を英語で説明し合います。

Step 4. 「スマホの中の写真」を一つ選んでイラストに描きます。(P.21)

- ・ イラストを描くことで、ブレインストーミング Brain Storming が期待できます。
- ・ ブレインストーミングをすることで、アイデアが浮かび、そのアイデアを整理することができます。

☀ 学習者が持っているスマホに保存している写真から一つ選んで、それをイラストに描くようにすると授業が盛り上がります。

Step 5. 各自のスピーチの英文シナリオを作成します。(P.21)

- ・ 自分で描いたイラストを説明する英文シナリオを作成します。
- ・ サンプル英文を参考にしても良いでしょう。
- ・ この時に書く英文は中学生レベルの英語で十分です。英語の間違いを恐れずに書くことをすすめ、指導者の修正は最低限必要な箇所のみにした方が良い

かもしれません。

- ・指導者による修正を最低限に抑える理由は、サンプル英文を読んだり、手本にすることで、学習者が自律的に習得することが期待できるからです。

Step 6. キューカードを作ります。(巻末キューカード Unit 4)

- ・各自が書いた英文シナリオから、動詞（Be 動詞は補語と一緒に）とシグナルワードを抜き出します。
- ・巻末のキューカードをキリトリ線で切り取り、下線上に動詞キューワードまたはシグナルワードを記入し、文末にはピリオドの代わりに//を記します。

Step 7. 音読を数回します。学習者に英文を暗記させる必要はありません。

- ・暗記することによって、間違いを恐れ、英語で話すことを躊躇してしまい苦手意識を持ってしまうかもしれません。暗記をしないように指導します。

Step 8. キューカードを見ながらスピーチをします。

- ・教室の皆の前で話すことが難しいようなら、グループを作って、その中でスピーチし合うのも良いでしょう。
- ・スピーチをする人はもちろん指導者も日本語の使用はひかえます。
- ・発表者の緊張を和らげるために、指導者が英語で相槌を打ったり、小さな質問を差しはさんでも良いでしょう。それによって自然なスピーチや会話にもなります。実は英語母語話者の彼らも、スピーチの場で、聞き手が相槌をうったりコメントを発することがよくあります。スピーチを静かに一方向で聞く時もありますが、双方向で行ってスピーチが盛り上がるのも楽しく、英会話の上達につながるでしょう。
- ・キューカードの上に評価（SCORE）を記入することができます。

Step 9. 聞き手は PEER ASSESSMENT SHEET に発表内容を聞き取ります。(P. 22-23)

- ・この時、英語で書きとることをお勧めします。仲間のスピーチを聞き取り書き留めることで、リスニングだけでなくライティング練習にもなるでしょう。

Unit 5 “Last night, I had a strange dream.” 「昨日の夢」 (過去形)

Step 1. サンプル英文 (P. 24) を読んで自分のスピーチの参考にします。

・ サンプルスピーチの構成

Introduction : Salutation(挨拶)→Main Idea 「昨日の夢」

Supporting : 「夢の内容」

Conclusion : 「なんでそんな夢をみたのか」

・ 使いたい語句

Last night 昨夜 / a strange dream 変な夢 / in the dream 夢の中で / keep ~ing, ~し続ける / along a road 道沿いを / pedal my bicycle 自転車をこぐ / on the way back 帰る途中 / unfortunately 不幸にも / not~at all 全く~ない / As soon as~, ~するとすぐに / and then そしてそれから

・ 使いたい文法

過去形 : I had a strange dream.

I was on an island.

I rented a bicycle and kept riding ...

It started to hail ...

I was soaked ...

The hot water did not run ...

Step 2. サンプル英文を音読練習します。

Step 3. リテリング(Retelling)練習で英会話の口ならしをします。

- ・ ペアを組んで、サンプル英文を手で覆い、イラストを見ながら内容を英語で説明し合います。

Step 4. 「昨日の夢」をイラストに描きます。(P.25)

- ・ イラストを描くことで、ブレインストーミング Brain Storming が期待できます。
- ・ ブレインストーミングをすることで、アイデアが浮かび、そのアイデアを整理することができます。

☞ 指導者が以前みた夢の話をする、学習者は自分の夢を思い出すきっかけになるかもしれません。

Step 5. 各自のスピーチの英文シナリオを作成します。(P.25)

- ・ 自分で描いたイラストを説明する英文シナリオを作成します。
- ・ サンプル英文を参考にしても良いでしょう。
- ・ この時に書く英文は中学生レベルの英語で十分です。英語の間違いを恐れずに書くことをすすめ、指導者の修正は最低限必要な箇所のみにした方が良いでしょう。

- ・指導者による修正を最低限に抑える理由は、サンプル英文を読んだり、手本にすることで、学習者が自律的に習得することが期待できるからです。

Step 6. キューカードを作ります。(巻末キューカード Unit 5)

- ・各自が書いた英文シナリオから、動詞（Be 動詞は補語と一緒に）とシグナルワードを抜き出します。
- ・巻末のキューカードをキリトリ線で切り取り、下線上に動詞キューワードまたはシグナルワードを記入し、文末にはピリオドの代わりに//を記します。

Step 7. 音読を数回します。学習者に英文を暗記させる必要はありません。

- ・暗記することによって、間違いを恐れ、英語で話すことを躊躇してしまい苦手意識を持ってしまうかもしれません。暗記をしないように指導します。

Step 8. キューカードを見ながらスピーチをします。

- ・教室の皆の前で話すことが難しいようなら、グループを作って、その中でスピーチし合うのも良いでしょう。
- ・スピーチをする人はもちろん指導者も日本語の使用はひかえます。
- ・発表者の緊張を和らげるために、指導者が英語で相槌を打ったり、小さな質問を差しはさんでも良いでしょう。それによって自然なスピーチや会話にもなります。実は英語母語話者の彼らも、スピーチの場で、聞き手が相槌をうったりコメントを発することがよくあります。スピーチを静かに一方向で聞く時もありますが、双方向で行ってスピーチが盛り上がるのも楽しく、英会話の上達につながるでしょう。
- ・キューカードの上に評価（SCORE）を記入することができます。

Step 9. 聞き手は PEER ASSESSMENT SHEET に発表内容を聞き取ります。(P. 26-27)

- ・この時、英語で書きとることをお勧めします。仲間のスピーチを聞き取り書き留めることで、リスニングだけでなくライティング練習にもなるでしょう。

Unit 6 “We were cooking at that time.” 「あの時は…」

(過去進行形)

Step 1. サンプル英文 (P. 28) を読んで自分のスピーチの参考にします。

・ サンプルスピーチの構成

Introduction : Salutation(挨拶)→Main Idea 「あの時のこと」
Supporting : 「何をしていたのか」
Conclusion : 「感想」

・ 使いたい語句

During~, ~の間 / secretly 内緒で / Because なぜならば / frighten 驚かせる
show 映し出す / a terrible disaster 恐ろしい災難 / When ~, ~の時
/ for safety checks, 安全点検のために / pray 祈る / let~, ~させる /
My prayers came true. 祈りが叶った。 / Soon after that, その後すぐに / a great
relief とても安心 / surely もちろん / unforgettable 忘れられない

・ 使いたい文法

過去進行形 : My sister and I were cooking ...
We were waiting for a message...

Step 2. サンプル英文を音読練習します。

Step 3. リテリング(Retelling)練習で英会話の口ならしをします。

- ・ ペアを組んで、サンプル英文を手で覆い、イラストを見ながら内容を英語で説明し合います。

Step 4. 自分の「あの時にしていたこと」をイラストに描きます。(P.29)

- ・ イラストを描くことで、ブレインストーミング Brain Storming が期待できます。
 - ・ ブレインストーミングをすることで、アイデアが浮かび、そのアイデアを整理することができます。
- ☀ 地震や台風などの災害時にあった忘れられないことを思い出し、その時の様子をイラスト書きます。

Step 5. 各自のスピーチの英文シナリオを作成します。(P.29)

- ・ 自分で描いたイラストを説明する英文シナリオを作成します。
- ・ サンプル英文を参考にしても良いでしょう。
- ・ この時に書く英文は中学生レベルの英語で十分です。英語の間違いを恐れずに書くことをすすめ、指導者の修正は最低限必要な箇所のみにした方が良いでしょう。
- ・ 指導者による修正を最低限に抑える理由は、サンプル英文を読んだり、手本にすることで、学習者が自律的に習得することが期待できるからです。

Step 6. キューカードを作ります。(巻末キューカード Unit 6)

- ・各自が書いた英文シナリオから、動詞（Be 動詞は補語と一緒に）とシグナルワードを抜き出します。
- ・巻末のキューカードをキリトリ線で切り取り、下線上に動詞キューワードまたはシグナルワードを記入し、文末にはピリオドの代わりに//を記します。

Step 7. 音読を数回します。学習者に英文を暗記させる必要はありません。

- ・暗記することによって、間違いを恐れ、英語で話すことを躊躇してしまい苦手意識を持ってしまうかもしれません。暗記をしないように指導します。

Step 8. キューカードを見ながらスピーチをします。

- ・教室の皆の前で話すことが難しいようなら、グループを作って、その中でスピーチし合うのも良いでしょう。
- ・スピーチをする人はもちろん指導者も日本語の使用はひかえます。
- ・発表者の緊張を和らげるために、指導者が英語で相槌を打ったり、小さな質問を差しはさんでも良いでしょう。それによって自然なスピーチや会話にもなります。実は英語母語話者の彼らも、スピーチの場で、聞き手が相槌をうったりコメントを発することがよくあります。スピーチを静かに一方向で聞く時もありますが、双方向で行ってスピーチが盛り上がるのも楽しく、英会話の上達につながるでしょう。
- ・キューカードの上に評価（SCORE）を記入することができます。

Step 9. 聞き手は PEER ASSESSMENT SHEET に発表内容を聞き取ります。(P. 30-31)

- ・この時、英語で書きとることをお勧めします。仲間のスピーチを聞き取り書き留めることで、リスニングだけでなくライティング練習にもなるでしょう。

Unit 7 “It will rain tomorrow.” 「明日は雨らしい」(未来形)

Step 1. サンプル英文 (P. 32) を読んで自分のスピーチの参考にします。

・ サンプルスピーチの構成

Introduction : Salutation(挨拶)→Main Idea 「明日は雨だが雨といえば思い出す」
Supporting : 「雨で思い出す辛い経験」
Conclusion : 「その経験から学んだこと」

・ 使いたい語句

According to ～, ～によると / the weather forecast 天気予報 / a soccer game against ABC team, ABC チームとの試合 / the semifinals 準決勝 / of course もちろん / to tell the truth 実を言うと / make a big miskick ミスキックをする / Because of ～, ～のために / lose confidence 自信を無くす / someday いつか / overcome 克服する / I'm excited about ～, ～に興奮している

・ 使いたい文法

未来形 : It will rain tomorrow.
We are going to have a soccer game against ABC team tomorrow.
We will play the game.
I will overcome my weaknesses.

Step 2. サンプル英文を音読練習します。

Step 3. リテリング(Retelling)練習で英会話の口ならしをします。

- ・ ペアを組んで、サンプル英文を手で覆い、イラストを見ながら内容を英語で説明し合います。

Step 4. 「明日、雨が降るという天気予報を知った時の雨にまつわる思い出」をイラストに描きます。(P.33)

- ・ イラストを描くことで、ブレインストーミング Brain Storming が期待できます。
- ・ ブレインストーミングをすることで、アイデアが浮かび、そのアイデアを整理することができます。

Step 5. 各自のスピーチの英文シナリオを作成します。(P.33)

- ・ 自分で描いたイラストを説明する英文シナリオを作成します。
- ・ サンプル英文を参考にしても良いでしょう。
- ・ この時に書く英文は中学生レベルの英語で十分です。英語の間違いを恐れずに書くことをすすめ、指導者の修正は最低限必要な箇所のみにした方が良いでしょう。
- ・ 指導者による修正を最低限に抑える理由は、サンプル英文を読んだり、手本にすることで、学習者が自律的に習得することが期待できるからです。

☀️ **コンクルージョンでは、雨の日の経験から学んだことを述べます。**

Step 6. キューカードを作ります。(巻末キューカード Unit 7)

- ・各自が書いた英文シナリオから、動詞（Be 動詞は補語と一緒に）とシグナルワードを抜き出します。
- ・巻末のキューカードをキリトリ線で切り取り、下線上に動詞キューワードまたはシグナルワードを記入し、文末にはピリオドの代わりに//を記します。

Step 7. 音読を数回します。学習者に英文を暗記させる必要はありません。

- ・暗記することによって、間違いを恐れ、英語で話すことを躊躇してしまい苦手意識を持ってしまうかもしれません。暗記をしないように指導します。

Step 8. キューカードを見ながらスピーチをします。

- ・教室の皆の前で話すことが難しいようなら、グループを作って、その中でスピーチし合うのも良いでしょう。
- ・スピーチをする人はもちろん指導者も日本語の使用はひかえます。
- ・発表者の緊張を和らげるために、指導者が英語で相槌を打ったり、小さな質問を差しはさんでも良いでしょう。それによって自然なスピーチや会話にもなります。実は英語母語話者の彼らも、スピーチの場で、聞き手が相槌をうったりコメントを発することがよくあります。スピーチを静かに一方向で聞く時もありますが、双方向で行ってスピーチが盛り上がるのも楽しく、英会話の上達につながるでしょう。
- ・キューカードの上に評価（SCORE）を記入することができます。

Step 9. 聞き手は PEER ASSESSMENT SHEET に発表内容を聞き取ります。(P. 34-35)

- ・この時、英語で書きとることをお勧めします。仲間のスピーチを聞き取り書き留めることで、リスニングだけでなくライティング練習にもなるでしょう。

Unit 8 “When Kenta was a small child, he lived in Osaka.”

「ケンタは子どものころ、大阪に住んでいました」(接続詞)

Step 1. サンプル英文 (P.36) を読んで自分のスピーチの参考にします。

・ サンプルスピーチの構成

Introduction : Salutation(挨拶)→Main Idea 「子どもの時…に住んでいました。」

Supporting : 「その時の思い出について」

Conclusion : 「今振り返って思うこと」

・ 使いたい語句

Used to ~, よく~したものだった / various places 色々な所 / such as ~,
~のような / give advice 助言をする / have trouble 困る / twist his ankle 足首
を捻挫する / by accident 事故で / is in the hospital 入院する / far away from ~,
~から遠く離れて / it will be his turn 彼の番だろう

・ 使いたい文法

接続詞 : Kenta lived in Osaka when he was a small child.

They sometimes give him advice when he has trouble.

Step 2. サンプル英文を音読練習します。

Step 3. リテリング(Retelling)練習で英会話の口ならしをします。

- ・ ペアを組んで、サンプル英文を手で覆い、イラストを見ながら内容を英語で説明し合います。

Step 4. 自分の「子どものころに住んでいた場所や訪れていた場所」をイラストに描きます。(P.37)

- ・ イラストを描くことで、ブレインストーミング Brain Storming が期待できます。
- ・ ブレインストーミングをすることで、アイデアが浮かび、そのアイデアを整理することができます。

☀ 生まれてから今日まで引っ越しや移動をしたことが無い場合は、訪れていた所のことを話してもよいでしょう。

Step 5. 各自のスピーチの英文シナリオを作成します。(P.37)

- ・ 自分で描いたイラストを説明する英文シナリオを作成します。
- ・ サンプル英文を参考にしても良いでしょう。
- ・ この時に書く英文は中学生レベルの英語で十分です。英語の間違いを恐れずに書くことをすすめ、指導者の修正は最低限必要な箇所のみにした方が良いでしょう。
- ・ 指導者による修正を最低限に抑える理由は、サンプル英文を読んだり、手本

にすることで、学習者が自律的に習得することが期待できるからです。

Step 6. キューカードを作ります。(巻末キューカード Unit 8)

- ・各自が書いた英文シナリオから、動詞（Be 動詞は補語と一緒に）とシグナルワードを抜き出します。
- ・巻末のキューカードをキリトリ線で切り取り、下線上に動詞キューワードまたはシグナルワードを記入し、文末にはピリオドの代わりに//を記します。

Step 7. 音読を数回します。学習者に英文を暗記させる必要はありません。

- ・暗記することによって、間違いを恐れ、英語で話すことを躊躇してしまい苦手意識を持ってしまうかもしれません。暗記をしないように指導します。

Step 8. キューカードを見ながらスピーチをします。

- ・教室の皆の前で話すことが難しいようなら、グループを作って、その中でスピーチし合うのも良いでしょう。
- ・スピーチをする人はもちろん指導者も日本語の使用はひかえます。
- ・発表者の緊張を和らげるために、指導者が英語で相槌を打ったり、小さな質問を差しはさんでも良いでしょう。それによって自然なスピーチや会話にもなります。実は英語母語話者の彼らも、スピーチの場で、聞き手が相槌をうったりコメントを発することがよくあります。スピーチを静かに一方向で聞く時もありますが、双方向で行ってスピーチが盛り上がるのも楽しく、英会話の上達につながるでしょう。
- ・キューカードの上に評価（SCORE）を記入することができます。

Step 9. 聞き手は PEER ASSESSMENT SHEET に発表内容を聞き取ります。(P. 38-39)

- ・この時、英語で書きとることをお勧めします。仲間のスピーチを聞き取り書き留めることで、リスニングだけでなくライティング練習にもなるでしょう。